

政策・施策成果の評価検証結果

平成 22 年 8 月 26 日
第 2 回総合計画審議会
資料 No. 4

※指標項目について、目標値に変更があるものは変更前の数値を掲載

※平均スコアの算出方法・・・満足度の平均スコアは、「満足」+2、「やや満足」+1、「どちらともいえない」0、「やや不満」-1、「不満」-2とし、その平均点を算出したもの。重要度のスコアも同様に算出。
※項目全体の平均値・・・満足度0.00、重要度0.91

【凡例】 ◎: 上位10項目 ○: 平均値以上 △平均値未満 ▲: 下位10項目

基本政策 (7項目)	政策分野 (20項目)	政策目標										
		目指す状態	指標項目	策定時実績値	今回の中間検証				H26 目標値			
					時点 (年度)	目標値	実績値	時点 (年度)		判定		
1 人にやさしい暮らしの自立	1 住民自治と市民活動の充実した市民が主役のまちづくり	新しい自治の仕組みが市民に浸透することによって住民自治が高まり、自助・共助・公助がそれぞれの立場や能力に応じて実践される、市民が主役のまち。	地域協議会委員に定数以上の応募があった地域自治区の割合	38.5%	H16	45.0%	0.0%	H21	×	55.0% ※指標変更前		
			当初: ボランティア活動に参加している市民の割合 今回: 市民活動や地域活動に参加している市民の割合 ※今後、住民自治がより一層重要となることから、今回から、ボランティア活動に限定しない設問とした。 (上越市市民の声アンケート)	8.1%	H17	9.7%	43.3%	H21	—	11.9% ※指標変更前		
	2 協調と融和を基調とした人にやさしいまちづくり	門地、性別、障害の有無、国籍等による意識上の障壁を含むあらゆる障壁が解消され、多様な価値観を認め合う人にやさしいまち。	バリアフリーの面で支障を感じる市民の割合(上越市人権・同和問題に関する市民アンケート調査)	41.2%	H17	36.4%	調査中 (9月確定見込み)	H22	—	30.0%		
			人権同和問題に関する正しい理解度(上越市人権・同和問題に関する市民アンケート調査)	73.9%	H17	80.3%	調査中 (9月確定見込み)	H22	—	88.9%		
2 自立した確立した運営が	1 効果的で効率的な行政運営の推進	PDCAサイクルによる事業実施の定着や、機能的な組織体制の構築、行政情報の市民との共有化などを通じて、常に課題の本質と政策命題に基づく合理的な判断の下、効果的な手法を選択する「目標追求・成果重視型」の行政運営が行われている状態。	PDCAサイクルに基づく業務執行の定着度	—	—	100%	44.2%	H20	×	100%		
			職員数	2,240人	H19	2,079人	2,041人	H22	○	1,950人		
			市の情報提供に満足している市民の割合(上越市市民の声アンケート)	42.8%	H17	58.0%	40.6%	H21	×	70.0%		
	2 弾力性のある自立した財政基盤の確立	歳入の適正な確保と計画的な財政運営、土地開発公社の経営健全化などを通じた健全な財政運営を推進し、弾力性のある自立した財政基盤が確立された状態。	収納率	94.8%	H18	95.0%	94.6%	H21	×	95.0%		
実質単年度収支			-2.75億円	H18	黒字	黒字 (4.09億円)	H20	○	黒字			
通常分の市債残高			866億円 (1,135億円)	H18	846億円 (1,095億円)	847億円	H20	—	786億円 (1,055億円)			
土地開発公社の土地保有額			234億円 (225億円)	H18	148億円 (138億円)	185億円	H21	×	62億円 (52億円)			
3 つながりを育み続ける都市基盤が確立したまち	1 地域の特色をいかした魅力あふれる空間の形成	機能的な土地利用を推進するとともに、水と緑豊かな都市空間や良好な景観を形成し、市民生活や企業活動を支えるライフラインを確立することによって、地域の特色をいかした魅力あふれる空間が形成されたまち。	市街化区域の未利用地面積	143.2ha	H18	75.9ha	102.2ha	H22	×	50.7ha		
			当初: 景観形成地区指定面積 今回: 景観づくり重点区域面積 ※上越市景観計画の策定に伴う文言修正 緑や水辺が豊かだと感じる市民の割合(上越市市民の声アンケート)	70.2%	H18	70.2ha	70.2ha	H22	○	80.0ha		
			石綿セメント管残延長	106,553m	H18	66,253m	53,048m	H22	○	29,031m		
			ねずみ錆鉄管残延長	10,589m	H18	2,924m	931m	H22	○	0m		
			地上デジタル放送の視聴可能世帯率	95.0%	H19	100%	99.2%	H21	○	100%		
			2 人やまちをつなぐ魅力を高める交通ネットワークの確立	市内における都市構造と公共交通・道路ネットワークの一体的な構築が進み、港湾機能や高速交通ネットワークが充実することによって、市の拠点性が高まり、交流の拡大や投資を誘引する基盤が確立されたまち。	市内高速道路インターチェンジの利用台数	562万台	H17	588万台	650万台	H21	○	609万台
					鉄道の利用者数	328万人	H17	324万人	327万人	H21	○	344万人
	路線バスの利用者数	293万人			H17	290万人	224万人	H21	×	308万人		

市民の声アンケートの設問(問6)						
項目名	今回調査結果				H17調査からの平均スコアの変化	
	満足度 平均スコア	満足度 判定	重要度 平均スコア	重要度 判定	満足度	重要度
60 まちづくり団体など、地域コミュニティ活動への支援	0.01	○	0.57	▲	0.00	-0.02
10 地域福祉を支える市民のボランティア活動への支援	0.08	○	0.84	△	-0.09	-0.09
11 障害のある人、高齢者などが安全・安心に生活できるバリアフリーの環境づくり	-0.10	△	1.15	○	-0.01	0.00
40 国際的な文化交流の推進	-0.08	△	0.42	▲	-0.04	0.01
58 男女共同参画社会の実現	-0.01	△	0.54	▲	0.01	-0.01
56 行政改革による効率的・効果的な市政運営	-0.16	△	1.02	○	0.05	0.01
59 各種委員会への公募市民の登用やパブリックコメント(市民意見公募手続)など、市民参画のまちづくり	0.00	△	0.57	▲	0.00	-0.07
57 財源確保や適正な支出による健全な財政運営	-0.21	△	1.15	○	0.02	0.00
49 区画整理事業などによる優良な市街地の形成	0.09	○	0.49	▲	0.01	0.01
50 公営住宅整備や持ち家支援など、ゆとりある居住空間の確保	0.00	○	0.67	△	-0.01	0.00
54 美しい街並みや景観の形成	-0.04	△	0.60	▲	-0.03	-0.05
53 市民の憩いの場としての公園・緑地の整備	0.08	○	0.68	△	-0.02	-0.06
47 安全な水道水の安定供給	0.77	◎	1.32	◎	0.22	-0.05
55 インターネットやケーブルテレビなど、情報通信基盤の整備	0.11	○	0.70	△	0.07	-0.03
42 身近な生活道路の整備	0.30	◎	1.03	○	0.16	-0.01
43 主要幹線道路の整備	0.36	◎	0.95	○	0.10	0.00
44 鉄道やバスなどの利便性の向上	-0.34	▲	1.01	○	-0.08	0.07
51 新幹線の整備促進と新駅の周辺整備	-0.23	▲	0.68	△	-0.12	0.14
52 直江津港の整備と利用促進	-0.07	△	0.64	△	-0.09	0.03

政策分野の検証と今後の方向性
<p>平成20年4月の自治基本条例の施行、平成21年10月の市民投票条例の施行及び全市域への地域自治区設置など、自治の仕組みづくりを進めてきた。</p> <p>しかし、地域自治区制度について知っている・期待していると答えた市民はともに約35%と認知度が低く、地域協議会委員への応募が定数を超えた区は皆無であった。一方で、地域自治区制度を知っていると答えた人の約6割が期待していると答えており、期待度の低迷は、認知度不足によるところが大きい。</p> <p>このことから、新しい自治の制度・仕組みや活動の成果を積極的に市民に周知することにより市民の関心を高めるとともに、地域や市民の自発的・主体的な活動を支援する。</p>
<p>公共建築物ユニバーサルデザイン指針の策定やユニバーサルデザイン啓発冊子の配布、平成20年12月に行った人権都市宣言をはじめとして、様々な障壁が解消されるよう啓発に取り組んできた。</p> <p>しかし、いずれの項目も市民の満足度が平均以下であることから、多様な価値観を認め合うことができるよう、啓発活動を主とした取組を継続していく。</p>
<p>市の中心的な業務の運営については、すでにPDCAサイクルにより適切に管理されており、PDCAサイクルを意識した業務執行は職員に定着したと考えているが、行政改革による効率的・効果的な市政運営に関して、市民実感による重要度は平均を上回っている一方で、満足度は平均を下回っている。また、市の情報提供に満足している人の割合は約4割にとどまっている。</p> <p>策定後の人材育成方針に基づく職員の育成、必要に応じた組織機構の見直しを通じ、効果的で効果的な行政運営を進める。また、広報紙やホームページの見直しを進め、市民の関心を高める。</p>
<p>歳入確保の取組については、納入促進員の導入、租税教育の実施、広報紙等への有料広告の掲載などにより一定の効果があつたものの、景気低迷の影響から、指標項目である収納率や土地開発公社の土地保有額の削減の目標を達成できなかった。</p> <p>健全な財政運営に関しては、重要度が平均を上回っている一方で、満足度は平均を下回っており、市民の関心は相変わらず高い。</p> <p>平成27年度以降の普通交付税等の大幅な減額を見据え、自立した財政基盤を確立するため、将来負担の軽減や歳出予算の減量化を図っていく。</p> <p>また、予算編成にあたっては、組織改編により財政部局と政策部局が統合され、効果的な投資が可能となる体制を整備されたことを踏まえ、事業費の配分調整から重点施策への的確な予算配分に転換を図っていく。</p>
<p>ガスや水道などライフラインの整備は、予定を上回る進捗を見せており、この分野の満足度はおおむね平均を上回っている。</p> <p>また、情報通信基盤の整備においても、地域間の情報格差はおおむね解消されている。</p> <p>一方で、景気低迷などから、土地区画整理事業が想定通りに進んでいないほか、市が分譲している住宅団地についても、未売却地の販売促進を図る必要がある。</p>
<p>市民の道路網の整備に関する満足度は高く、上信越自動車道の全線4車線化や、上越魚沼地域振興快速道路の早期完成に向けた要望活動を続けていくとともに、身近な生活道路については、緊急性や重要性を考慮した計画的な維持管理と、橋梁の長寿命化など適正な管理を行う。</p> <p>公共交通機関については市民の満足度が低く、利用者も減少傾向にある。</p> <p>新幹線の整備促進と新駅の周辺整備については、市民の関心が高まっており、新幹線の開業を見据えて各地域の連携を深めるとともに、国、県、関係機関との連携を更に強化し、つながりを意識した交通ネットワークの構築を進めていく。</p>

基本政策 (7項目)	政策分野 (20項目)	政策目標								
		目指す状態	指標項目	策定時実績値		今回の中間検証				H26 目標値
				時点 (年度)	目標値	実績値	時点 (年度)	判定		
4 自然と共生し、暮らしを安心して暮らせるまち	1 人と自然が共生する環境にやさしいまちづくり	環境学習の推進と合わせて、地球環境、自然環境、生活環境それぞれに対する環境負荷が軽減され、人と自然が共生する環境にやさしいまち。	環境改善活動を実践する市民の割合(上越市環境市民アンケート)	60.4%	H16	68.5%	64.3%	H21	×	75.0%
			二酸化炭素排出量(CO2換算)	2,862千t	H15	2,109千t	2,664千t	H18	×	2,094千t
			森林面積(民有林面積)	48,786ha	H17	48,791ha	48,776ha	H21	×	48,795ha
			市民1人当たりの家庭ごみ排出量	301kg	H18	297kg	244kg	H21	○	291kg
			汚水衛生処理率(生活排水処理が適切に処理されている人口割合)	56%	H16	71%	73%	H21	○	80%
	2 災害から市民の安全と財産を守るまちづくり	災害に強い都市構造の構築が進み、地域ぐるみの防災力が向上し、さらには発生した災害に迅速かつ的確に対応できる体制の確保によって、災害への高い対応能力を持ったまち。	公共の施設の耐震化整備率	14.0%	H18	50.0%	51.4%	H21	○	85.0%
			火災発生件数	64件	H18	58件	57件	H21	○	58件
			自主防災組織の組織率	60.0%	H18	84.1%	83.9%	H21	×	100%
	3 犯罪と事故から市民を守るまちづくり	犯罪による被害や交通事故を未然に防ぐ啓発活動が推進され、地域ぐるみの防犯力が向上することによって、事故や犯罪の発生が抑制された安心感の高いまち。	犯罪発生件数	2,002件	H18	1,802件	1,677件	H21	○	1,802件
			交通事故死者数	15人	H18	13人以下	6人	H21	○	13人以下
	4 雪と上手につきあう暮らしを実現するまちづくり	雪がもたらす障壁を克服しつつ、雪を資源として活用する工夫などを通して、雪と上手につきあう暮らしが営まれるまち。	幹線市道における交通不能発生件数	0件	H18	0件	0件	H21	○	0件
雪に関する新技術・活用モデルの調査研究数			2件	H18	2件	2件	H21	○	2件	
5 活発な産業が地域に活力を生み出すまち	1 農林水産業によるなりわいを創出するまちづくり	意欲ある担い手の育成や生産性の向上、生産物の付加価値の向上などによって、農林水産業の多面的な機能が維持されつつ、生産者の高い生産意欲や産地としての高い競争力を持ったまち。	農業産出額	226億円	H17	243億円	※国がH18年で市町村別集計を廃止	—	265億円	
			林業経営体数(※一定の規模・年数にわたり林業を行う世帯等)	306	H17	300	集計中(秋に公表予定)	H22	—	300
			漁業従事者数	178人	H15	170人	163人	H20	×	170人
	2 ものづくり産業による付加価値を高めるまちづくり	ものづくり産業の集積や新産業の創出、物流・貿易の振興によって、市域の中で高い付加価値が創出されるまち。	工業における付加価値額	2,262億円	H17	2,661億円	2,017億円	H20	×	2,979億円 ※指標変更前
			直江津港貨物取扱量	6,086千t	H17	6,133千t	2,135千t	H21	×	6,170千t
	3 交流にぎわいと「外貨」をもたらすまちづくり	地域資源をいかした観光産業や中心市街地の活性化によってにぎわいがもたらされ、市外からの「外貨」が集まるまち。	市内宿泊客数(上越市観光動態調査)	20.99万人	H18	22.73万人	26.58万人	H21	○	24.59万人
			観光ホームページアクセス数	15.98万件	H18	19.45万件	39.54万件	H21	○	23.64万件
			商店街歩行者数(※上越市中心市街地交通量調査/高田3か所・直江津2か所)	7,129人	H17	7,000人	4,786人	H21	×	7,500人
	4 企業連携と雇用促進により経済基盤を強化するまちづくり	起業や企業連携、人材育成の双方が促進されることによって、産業活動が生み出した価値が市域内で循環する連関性が高まるとともに、雇用環境と就労機会が充実し、地元の求人が地元の人材で充足しているまち。	事業所数	10,558	H16	10,000	10,902	H18	○	10,000
			有効求人倍率(常用)	0.96倍	H17	1.00倍	0.33倍	H21	×	1.05倍
			高校卒業後の地元就職割合	67.4%	H17	74.4%	78.9%	H21	○	80.0%
Uターン登録就職者			18人	H17	21人	6人	H21	×	25人 ※指標変更前	
勤労者福祉サービスセンター加入企業数			911	H17	1,106	1,204	H22	○	1,262	

市民の声アンケートの設問(問6)						
項目名	今回調査結果				H17調査からの平均スコアの変化	
	満足度 平均スコア	満足度 判定	重要度 平均スコア	重要度 判定	満足度	重要度
8 自然保護、環境保全をすすめる啓発活動	0.02	○	0.98	○	0.00	0.00
5 二酸化炭素の発生抑制など、地球温暖化対策	0.00	○	1.12	○	0.15	-0.12
7 太陽光発電や風力発電など、新エネルギーの利用	-0.27	▲	1.00	○	-0.08	0.06
8 自然保護、環境保全をすすめる啓発活動	0.02	○	0.98	○	0.00	0.00
6 産業廃棄物の処理対策	0.09	○	1.20	◎	0.16	-0.10
9 ごみの減量化とリサイクルの推進	0.45	◎	1.25	◎	-0.04	-0.11
48 下水道の整備など、生活排水の処理対策	0.54	◎	1.13	○	0.22	-0.05
4 大気や水質・騒音などの公害対策	0.25	◎	1.06	○	0.24	-0.08
46 災害に強い河川、海岸線の整備	0.16	◎	1.05	○	0.17	-0.18
1 火災、水害、地震などへの防災対策	0.28	◎	1.43	◎	0.24	-0.12
2 防犯灯の設置など、防犯対策	0.14	○	1.29	◎	0.25	-0.05
3 交通安全対策	0.28	◎	1.18	◎	0.19	-0.07
45 雪対策	-0.08	△	1.27	◎	0.12	-0.10
20 平場地域の農業の振興	0.03	○	0.74	△	0.00	0.11
21 中山間部の農業の振興	-0.14	△	0.75	△	-0.07	0.11
22 ほ場や農道など農村地域の基盤整備	0.14	○	0.57	▲	0.01	0.03
23 森林整備と林業の活性化	-0.15	△	0.67	△	-0.04	0.08
24 水産業の振興	-0.02	△	0.55	▲	-0.02	0.07
28 企業団地の整備や支援制度の充実などによる企業誘致の促進	-0.28	▲	0.91	△	-0.11	0.12
30 新しい産業の創出のための研究開発と創業・起業の支援	-0.32	▲	0.82	△	-0.08	0.04
27 地場産業の育成と技術開発支援など、工業の振興	-0.29	▲	0.96	○	-0.05	0.06
32 農山村での宿泊体験事業など、地域資源を活用した「地域おこし」の推進	-0.14	△	0.63	△	-0.08	0.01
29 観光拠点の整備と地域連携による観光の振興	-0.33	▲	0.92	○	-0.06	0.08
26 既存商店街の基盤整備や魅力づくりなど、商業の振興	-0.46	▲	0.95	○	-0.06	0.07
30 新しい産業の創出のための研究開発と創業・起業の支援	-0.32	▲	0.82	△	-0.08	0.04
25 中小企業の経営基盤強化と、人材育成の支援	-0.31	▲	1.07	○	-0.06	0.13
31 働く場の拡大と職業能力開発など、就業支援	-0.52	▲	1.28	◎	-0.13	0.09

政策分野の検証と今後の方向性
<p>第2次環境基本計画の策定とそれに基づく各種取組、自然環境保全条例の施行、全市統一制度による家庭ごみの有料化などを行った。</p> <p>この分野は、全体的に重要度が高く、市民の関心が高いことがうかがえる。満足度もおおむね平均を上回っている。</p> <p>一方、指標項目では未達成の項目が多く、環境負荷の軽減には道半ばといえることから、今後も市民への啓発、環境保全活動への自主的な参加の促進など、実践につながる効果的な取組を行っていく。</p>
<p>自主防災組織は、目標にわずかに届かなかったが8割を超える組織率となり、地域ぐるみの防災力は向上している。</p> <p>防災行政無線システムの整備は、平成23年度に完了する予定であり、今後は適切な管理及び運用を行っていく。</p> <p>前回調査からの満足度が大きく向上し、重要度、満足度ともに平均を上回っているが、手を緩めることのできない分野であり、継続した取組を行っていく。</p>
<p>上越市みんなで防犯安全安心まちづくり条例及び推進計画に基づき、取組を体系化し、地域や関係機関と連携した取組を行ったほか、自主的な防犯活動への支援によって、地域ぐるみの防犯力は向上している。</p> <p>前回調査からの満足度の上昇が大きく、全体的に重要度、満足度ともに平均を上回っているが、手を緩めることのできない分野であり、継続した取組を行っていく。</p>
<p>指標項目は目標を達成しているが、市民の実感からは、重要度が高いにも関わらず、満足度は前回調査からは向上したものの、平均を下回っている。</p> <p>雪への対応は、当市における積年の課題であることから、克雪と利雪の両面からの取組を行っていく。</p>
<p>中山間地域の農業振興と林業について市民の満足度が平均を下回っている。全体的に重要度は平均を下回っているものの、前回調査からは上昇している。</p> <p>集落間連携などにより中山間地域の振興に取り組むほか、農業者による6次産業化を促進し、地域内の消費拡大と地域外への販売強化を図っていく。</p> <p>食育活動を推進し、健全な食生活を営む能力を育むとともに、質の高い食生活を下支えする地域農産物の生産拡大と供給体制の整備を図る。</p>
<p>昨今の経済情勢を反映して、指標項目は未達成、市民の満足度も低い結果となった。</p> <p>経済情勢の変化に伴う影響を受けにくい産業構造を構築していくため、誘致型、内発型の両面から総合的にものづくり産業を活性化していく必要がある。このため上越ものづくり振興センターを中心に、産業の高度化と新たな産業の創出を支援していく。</p>
<p>観光では、「風林火山」「天地人」の2つの大河ドラマが追い風となり、各指標項目を達成できたが、市民の満足度は低い。</p> <p>商業に関しては、中心市街地の歩行者数が目標を大きく下回っており、重要度は高いが、満足度は低いという結果である。</p> <p>観光を産業としてとらえ、観光資源を磨き上げるとともに、広域連携によって周遊型・滞在型観光の確立に取り組んでいく。</p> <p>また、中心市街地については、地域の特性をいかした取組を行い、にぎわいの創出を図っていく。</p>
<p>昨今の経済情勢を反映して、有効求人倍率、Uターン登録就職者数は目標を下回った。また、市民の実感も、重要度が高いにも関わらず、満足度は平均を大きく下回った。</p> <p>雇用機会の充実と即効性のある施策はないが、市内企業の経営安定化を図ることが、雇用環境の安定にもつながることから、上越ものづくり振興センターを拠点として、企業間や産学間の連携を進め、市域内での産業連関を高めるとともに、新産業を育成することで、雇用環境と就労機会の充実につなげていく。</p>

基本政策 (7項目)	政策分野 (20項目)	政策目標								
		目指す状態	指標項目	策定時実績値		今回の中間検証				H26 目標値
				時点 (年度)	目標値	実績値	時点 (年度)	判定		
6 みんなの健やかな生活を支え合うまち	1 心身共に健康で暮らせるまちづくり	市民が健康に配慮した生活を送るとともに、いざというときに身近で適切な医療が受けられる体制を構築することによって、誰もが心身共に健康で暮らせるまち。	特定健診受診率 (※40～74歳の国民健康保険加入者を対象とする)	32.5%	H18	55.0%	44.6%	H21	×	65.0%
			市民1人当たりの医療費増減度 (※74歳以下の国民健康保険加入者を対象とする)	100.0	H19	106.1	105.0	H21	○	114.9
			救急指定病院数	8	H19	8	7	H22	×	8
	2 誰もが社会の一員としていきいきと暮らせる福祉のまちづくり	高齢者や障害のある人など、日常生活を営む上で支援を必要とする人に対し、それぞれの能力に応じた自立や社会参加に向けた支援が地域全体で行われることによって、誰もが地域社会を構成する一員としていきいきと暮らせる福祉のまち。	介護予防効果による介護抑制割合 (※特段の対策を講じない場合の推計値を基準とする)	—	—	1.21%	1.32%	H22	○	1.23% ※指標変更前
			福祉施設から一般就労への移行者数	6人	H17	16人	13人	H21	×	24人
			被保護世帯の就労世帯率	7.6%	H18	7.8%	9.2%	H21	○	8.0%
	3 みんなが笑顔で子育てできるまちづくり	児童福祉や保育サービスの充実、地域ぐるみで子育てを支援する環境づくりなどを通じて、みんなが笑顔で子育てできるまち。	乳児健康診査受診率	93.6%	H18	95.0%	95.0%	H21	○	97.0%
			子育てをしやすいと感じる市民の割合 (上越市市民の声アンケート)	53.7%	H17	60.0%	51.3%	H21	×	70.0%
7 人が学び、育ち、高めあうまち	1 未来に生きる力を持った子どもを育むまちづくり	学校教育の充実や地域ぐるみの教育力の向上によって、未来を自ら切り開いていくために必要な生きる力を持った子どもが育つまち。	子どもたちは充実した学校生活を送っていると感じる市民の割合 (上越市市民の声アンケート)	56.2%	H17	63.0%	63.9%	H21	○	70.0%
			子どもの健全育成に関わる地域住民数 (※学校支援ボランティア登録者数)	693人	H19	802人	2,294人	H21	○	975人
			未成年者の検挙・補導数	132人	H18	109人	94人	H21	○	91人
	2 学びやスポーツを生きがいに高めるまちづくり	多くの市民が学びやスポーツ活動を日常生活に取り入れ、いきいきと活動しているまち。	生涯学習を行う市民の割合 (上越市生涯学習に関するアンケート調査)	40.9%	H17	60.0%	42.1%	H22	×	65.0%
			週1回以上スポーツを行う市民の割合 (上越市市民の健康と運動・スポーツに関する意識調査)	26.0%	H17	36.0%	35.3%	H22	×	44.0%
	3 歴史と伝統に彩られた文化と誇りあふれるまちづくり	市固有の歴史・文化が、まちのアイデンティティや市民の愛着、誇りとして浸透し、次世代に継承される。歴史と伝統に彩られたまち。	市指定文化財件数	305件	H17	315件	310件	H22	×	320件
			主な文化・芸術関連施設の入館者数 (※総合博物館、小林古径記念美術館、上越文化会館)	174,835人	H18	180,000人	201,338人	H21	○	185,000人
			当初：市の歴史的、文化的資源に関する認識度 今回：市の歴史的、文化的資源が、守り活かされていると感じる市民の割合 ※計画策定時に設定した指標項目について、より具体的な内容の設問とした。 (上越市市民の声アンケート)	—	—	50.0%	48.0%	H21	×	75.0%

市民の声アンケートの設問(問6)						
項目名	今回調査結果				H17調査からの平均スコアの変化	
	満足度 平均スコア	満足度 判定	重要度 平均スコア	重要度 判定	満足度	重要度
18 健康意識の向上と健康づくり活動の推進	0.20	◎	0.87	△	-0.09	0.01
19 救急、休日、夜間の医療体制の充実	0.04	○	1.45	◎	0.00	0.03
14 高齢者のレクリエーションなど、生きがい支援	0.06	○	0.84	△	-0.05	0.02
13 高齢者の介護のための在宅福祉制度と施設整備	-0.07	△	1.29	◎	-0.14	0.06
12 障害のある人の自立・社会参加の支援と施設整備	-0.10	△	1.06	○	0.00	0.05
17 妊娠、出産後の支援など、母子保健活動の推進	0.09	○	1.05	○	0.04	0.01
15 育児相談など、子育て支援と少子化対策	-0.06	△	1.15	○	0.07	-0.02
16 保育園の時間延長など、保育サービスの充実	0.16	○	1.09	○	-0.03	0.03
34 少人数学級の実現など、小・中学校教育の充実	0.09	○	0.99	○	0.08	-0.05
33 幼稚園、小・中学校の施設や通学路の点検と整備	0.15	○	1.15	○	0.11	-0.02
37 青少年の健全育成のための体制充実	-0.07	△	0.74	△	0.04	-0.10
36 趣味、教養を高める生涯学習の推進と施設整備	-0.02	△	0.61	△	-0.05	-0.05
41 スポーツ、レクリエーションの振興と施設整備	0.04	○	0.60	▲	-0.03	0.02
38 歴史的遺産の保護と活用	0.03	○	0.70	△	-0.03	0.03
39 芸術、文化活動の推進	-0.04	△	0.53	▲	-0.04	0.05

政策分野の検証と今後の方向性
<p>特定健診の受診率は、年々上昇してはいるものの、目標を下回っている。また、医療体制の充実の重要度が平均を上回っており、市民の関心は高い。健康長寿社会を実現するため、健診受診率の向上、戸別訪問体制の強化などを図るとともに、医療機関等と連携し、地域医療体制や救急医療体制を充実していく。</p>
<p>昨今の経済情勢を反映して、福祉施設から一般就労への移行者数は目標を下回っている。また、市民の実感では、高齢者介護や障害のある人の自立・社会参加の支援に対する重要度が高いにも関わらず、満足度は平均を下回っている。高齢者の介護予防に引き続き取り組むほか、高齢者や障害のある人などが、自立し、社会参加できるような環境づくりを進める。</p>
<p>子育てしやすいと感じる市民の割合が、目標値を下回っており、市民実感では、各項目の重要度が平均を上回っている分野である。子育てに関する経済的負担の軽減や保育サービスの充実、育児相談の実施、地域全体で子育てを支援していく環境づくりなどにより、育児不安を解消し、安心して子育てができるような取組を進めていく。また、子どもが適切に養育されていない事例が増加してきているため、それらに対応できる体制を整備する。</p>
<p>総合教育プランに基づく教育活動の推進による理解の深まりや、学校支援地域本部事業の実施、地域青少年育成会議の設立による学校支援ボランティア登録者数の増加など、各指標項目は、目標値を達成した。また、学校教育分野では、市民の重要度、満足度がともに平均を上回っており、関心が高い。子どもたちが様々な体験を通して生きる力を習得できるよう、学校教育を充実するとともに、家庭、地域、学校が一体となった取組を推進していく。</p>
<p>生涯学習・生涯スポーツ共に指標項目の目標値を下回っている。また、市民実感からは、生涯学習の推進と施設整備に関する満足度が平均を下回っているが、スポーツ、レクリエーションの推進と施設整備の満足度は平均を上回っている。一人でも多くの市民が、生涯学習やスポーツに接し、参加できる機会を充実する。</p>
<p>指標項目では、施設の入館者数が、聚楽第行幸図屏風の特別公開により目標を達成したが、その他は未達成であった。市民実感では、歴史文化資源・資産の保護に関する項目でよい傾向がみられるが、文化・芸術活動の推進に関する項目が弱い。地域の活性化や郷土愛の意識を高めるため、地域資源である文化財の保護だけでなく、活用に向けた取組を継続・拡大していくほか、文化・芸術分野のネットワークを構築し、市民団体等の活動を支援していく。</p>